令和2年度　学校自己評価　　中津市立三郷小学校

評定判断基準
A ･･･達成率90～100%
B ･･･達成率70～ 89%
C ･･･達成率60～ 69%
D ･･･達成率60%未満

1 学校の教育目標:　身につけた「力」を活かし「深く考え」 意欲を高めて「挑戦」する 三郷っ子

2 育成を目指す資質・能力:　深く考える力 ・ 思いを発信し、行動する能力

チームやまぐにめざす児童・生徒像

○○○基本を大切にし、活用力を身につけ、主体的に学び自己表現できる児童・生徒
○○○自他を尊重し、思いや り と感謝の気持ちをもつ児童・生徒
○○○心身の健康に努める児童・生徒
○○○地域に誇りをもつ児童・生徒

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	担当	取組指標 実施率	取組指標に対する 取組状況の確認	達成指標に対する 達成状況の確認	達成指標・取組指標の妥当性を 検証	評価	成果と課題
【生きて働く知識・技能の習得】 基礎学力・基礎体力の向上	○児童アンケートで、「授業で学習したことを振り返り、考えや分かったことを言ったり書いたりすることができた。」◎○と回答する児童の割合を80%以上 ○児童アンケートで、「三郷チャレンジに取り組んで、自分の体力を向上させることができた。」と回答する児童の割合80%以上	学校	○ふり返りやキーワードによる基礎学力の定着。 ○言葉による表現力の向上	○子どもが毎時間授業でキーワードを使ってまとめや振り返りをする。 ○子どもたちが統一された話型掲示を活用して、発表や、聞き取りをする。	赤尾 土谷 梶谷 手嶋	67	・振り返りの時間は設定できるがまだキーワードの活用は不十分である。 ・児童への話型への意識付けがこれらの課題。	・児童アンケートの授業で「キーワード」や「はなしのしかた」を使ったりして、まとめとふり返りができた。は、できた、だいたいできたは72% ・教職員アンケートの、「キーワード」・「話の話型」を使って、授業のまとめやふり返りを設定することができた。はできた67%	達成指標･･･妥当 ・ふり返りチェックシートの言葉を焦点化して自己評価しやすくする。 ・発表の話型が不十分であるので、2学期重点的に指導する。 ・体力づくり＝柔軟とつながらない。自己評価しやすくする。	B	○コロナに配慮して、各教室で内容を工夫して場の設定ができたことにより、実施率がよかった。 ○キーワード、振り返りの時間を設定すると決め教師の意識が上がったことにより子どもへの指導につながり結果につながった。 ●子どもたちが自分の目標を意識して意欲的に実施することができなかった。 ●体校により、話形を指導する時間が十分にとれなかった。
			○体力テストの結果をもとにした三郷チャレンジの実施。	○全校児童が、体力テストで課題のあった項目を改善する取り組みを、毎朝のGM･F（グッドモーニング･フィットネス）で取り組む。		100	・毎朝三郷フィットネスに取り組めた。	・児童アンケートのGMFに取り組み、自分から進んで体力作りができた。はできた・だいたいできたは75%			
		家庭	○子どもが家庭学習に集中できる環境づくり。 ○子どもの健康のために生活習慣を見直す実践。	○家庭学習チェックシートの取組に参加し、感想を書く。 ○生活チェック週間は、特に「親子でメディアコントロール」に協力する。			・家庭学習チェックシートの実施 ・コロナの影響で実施なし。2学期実施。	・教職員アンケートの毎朝GMFに取り組ませることができた。は100% ・「宿題は何？」「学校はどうだった？」の声かけや「三郷っ子チャレンジカード」の保護者の一言欄に感想を書くなど、お子さんの家庭学習に関わっている			
		地域	○体力強化での学習支援 ○体育的行事への応援	○体育環境の支援に参加･参画する。 （運動場の整備、器具や道具の整備など）							
【未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成】 言語能力・活用力の育成	○児童アンケートで、‘言葉の力’ ①語彙力 ②話す力 ③聞く力 ④書く力 ⑤読む力 がついてきた◎○と回答する児童の割合80%以上 ※強化学期 1学期･･･①③⑤ 2学期･･･①②④ 3学期･･･①⑤④	学校	○‘言葉の力’をつける取組。	○国語・算数・理科の授業において、習得すべきキーワードを板書に位置づける。 ○‘言葉の力’をつけるペア・グループ学習を、1日1回以上、授業で取り入れる。 （※コロナ収束後、） ○月・火・木・金のスキルタイム（帯の時間）で、曜日と内容を固定した取組を行う。 月→語彙 火→話す聞くスキル 木→短文作成 金→読解プリント	木下 永 粉	100	職員アンケートで、「国語・算数・理科の授業において、習得すべきキーワードを板書に位置づけた」と回答･･･100%	児童アンケートで、‘言葉の力’がついてきた◎○と回答した児童の割合 ①語彙力･･･72% ③聞く力･･･83% ⑤読む力･･･83% 取組強化項目 2学期･･･①②④ 3学期･･･①⑤④	達成指標･･･妥当 ①③⑤平均79% 取組の継続 取組指標･･･一部訂正 コロナの影響を加味し、アンケートの文言を以下の通りに訂正。 「言葉の力をつけるために、ペア・グループ学習またはそれに見合った取組を行うことができた」 すべて取組は継続 週末読書カードの保管・還元方法の検討が必要。	B	○言葉の力をつけるための取組ができた。（キーワード、スキルタイム、週末読書･･･等） ●取組の継続と、ペアグループ学習等のコロナ対策の工夫。
						67	職員アンケートで、「言葉の力をつけるために、ペア・グループ学習またはそれに見合った取組を行うことができた」と回答･･･67%				
						83	職員アンケートで、「曜日・内容を固定したスキルタイムの実施ができた」と回答･･･83%				
		家庭	○家庭内で会話を増やし、子どもが読書に取り組むための声かけ。	○週末読書の声かけをし、子どもたちの取り組みを見守る。		95	7月セルフチェックシートで、「週末読書に取り組むことができた」と回答･･･95%				
		地域	○生活科、総合的な学習の時間で、GT（すくすくプロジェクト、森林体験学習）を活用した場面設定。	○生活科、総合的な学習の時間における計画をたてる。 ○GTとの打ち合わせ		100	すくすくプロジェクト・森林体験学習を可能な範囲ではすべて実施済。				
【学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養】 豊かな人間関係を構築し意欲的に行動する力の育成	○三郷っ子スピリッツチェックカードで、 三郷っ子スピリッツ 1．あいさつ 2．返事 3．言葉づかい 4．整理整頓 5．時間 について、◎○と回答する児童の割合90%以上 ○児童アンケートで、「言葉の力や発表の話型をいかして、授業の振り返りや児童集会・朝会・行事等で発表することができた。」と回答する児童の割合70%以上	学校	○きまりを守り、友だちとの関係を大切にする学級集団づくり。	○三郷っ子スピリッツの具体的な取り組みを行い、全校児童が毎週末にチェックカードで反省をする。 ○各学年帰りの会で、「学級ほめほめタイム」を実施する。 ○月初めの児童朝会で、「全校ほめほめタイム」を実施する。（同じなかよし班のメンバー） ○「ほめほめの葉」を記入・掲示する。	森元 宮地	100	毎週末、三郷っ子スピリッツチェックカードで5項目振り返った。（個人・学級）	・6月スピリッツチェックカード5項目が◎○と回答した児童94%（平均） 1あいさつ97% 2返事98% 3言葉づかい96% 4整理整頓89% 5時間92% ・スピリッツにチャレンジ（あいさつ）で◎○と回答した児童80% ・三郷っ子チャレンジカードに感想を記入後提出した保護者85%	達成指標･･･取り組めたものについては妥当。 スピリッツチェックカードについては100%。 児童アンケートで、「言葉の力や発表の話型をいかして、授業の振り返りや児童集会・朝会・行事等で発表することができた。」については、集会等がもてなかったため、言葉の力や発表の話型をいかせなかったのか発表ができなかったのか捉えられなかった。→アンケートの文言の改善が必要。	B	○「ほめほめタイム」や「ほめほめの葉」の取り組みにより、友達に関心を持ち、認め合おうとする意識を持てた。 ●発表の場を設けることができなかったため、大勢の人への表現力を確かめられなかった。 ●スピリッツチェックを◎にしようとする意欲付けをどうするか。
						83	一学年は、帰りの会で「ほめほめタイム」に取り組むことができなかった。 児童朝会ができなかったため、「全校ほめほめタイム」を実施することができなかった。 「ほめほめの葉」の取り組みを全校で行うことができた。				
			○相手に伝わるように、言葉の力をいかした表現。	○各学年の代表の児童が、月に2回の児童朝会で、生活目標の具体的な取り組みと反省を発表の話型やタブレット等を使って発表する。 ○児童集会・行事・掃除・学級などで、週に1回以上、感想発表の場を設ける。 ○各学年で、発表についての振り返りの場を週に1回以上設ける。		49	集会等がもてなかったため、発表の場を設けることができなかった。 掃除や各学年の活動後には、感想発表の場を設けることができた。				
		家庭	○家庭内で三郷っ子スピリッツの励行。	○PTA保体校外指導部を中心にしたあいさつ運動に年1回は参加する。 ○「スピリッツがんばりカード」の取り組みに参加し、感想を書く。		85	PTA保体校外指導部を中心にあいさつ運動に参加する取り組みは、今年度中止。 「三郷っ子チャレンジカード」に感想を書いた。				
		地域	○あいさつ・声かけ運動の推進。	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもの様子について、学校に伝える。（学期に1回アンケート）			登下校時に見守りを実施。 7月に1学期分のアンケートを配布。				
【働き方改革の推進】 時間外勤務の削減	○1箇月の時間外在校等時間を40時間以内にする。	学校	○計画的・効率的に会議を運営し、個別業務に充てる時間を確保するとともに、各担当の業務内容を精選する。	○ミドルリーダーは、提案内容について適宜、指導・助言を行い、提案内容の精度を上げる。	宮地 手嶋	80	・提案内容をミドルリーダーが事前に把握して、指導・助言できるように、提案者は計画的に準備する必要がある。	5月の時間外在校時間･･･約10．0h （臨時休業中）	・達成指標･･･妥当・継続 ・取組指標･･･継続 学校再開後及び、学期末は、時間外勤務や持ち帰りの業務が増加している。 2学期には、先送りした行事も控えているため、計画的・効率的に日々の業務を遂行しなければならない。	A	○働き方改革の意識が高まってきている。 7時解錠、18時施錠を進めてきた。 週休日の出勤もなくなった。 ●学校再開後及び、学期末は、時間外勤務や持ち帰りの業務が増加している。 2学期には、先送りした行事も控えているため、計画的・効率的に日々の業務を遂行しなければならない。
		家庭	○時間外のPTAや地域協育等に関わる会議等の実施について、内容を精選し、妥当な終了時間を設定する。	○担当者・司会者は会の進行管理と効率的な運営を行う。 ○参加者は積極的に意見を出し、効率的な会の運営に協力する。		100	・コロナ禍のため、どの会議も短時間で終了した。	6月の時間外在校時間･･･約23．5h 7月の時間外在校時間･･･約30．5h			
		地域									

計画（ 4月 6日 ）　確認・検証・改善（ 7月 29日 ）　自己評価（ 8月 20日 ）